

Kanagawa Library Association

巻頭言 研修委員の活動と、神図協 90 周年によせて	1
特集：神図協 この1年の動き	
地域資料委員会、大学図書館協力委員会	2
研修委員会、広報委員会	3
研修会レポート「シニア等に向けた医療・健康情報サービス」	4
連載：わたしのイチオシ「北原白秋自筆原稿（「泣け泣け」「もとめたお家）」	4

研修委員の活動と、神図協 90 周年によせて

研修委員長 岡野 正志
(川崎市立中原図書館長)

昨年度の企画委員長に引き続き、今年度は研修委員長を拝命していますが、自分は若かりし頃に研修委員を務めていた時期があったので、神図協の研修委員会に従事するのは2回目になります。

平成元年から平成4年まで、2期4年にわたって神図協の研修委員を仰せつかっていましたが、その頃の記憶を辿るべく過去の『神図協会報』を紐解いてみると、自分が研修委員であった時代には年間20回以上の研修を企画・開催したようで、秋には宿泊研修なども行っていました。時代は変わり今や実施困難でしょうが、これは企画する側にも楽しい研修でした。「図書館員の合宿」という気持であったと当時の研修事務局は書いています。

本来業務もある中で研修委員の業務をこなすのは中々大変でしたが、他の自治体の図書館員との交流はもちろん、大学や専門図書館の職員と一緒に研修の企画を考え実行していくのは、若かった自分にとって、やりがいを感じる仕事でもありました。館種を超えた人脈を作ることに繋がり、貴重な経験をさせていただいたと思っています。

さて、つい過去の思い出話に耽ってしまいましたが、今年の活動に目を向けると、今年は神図協が90周年を迎える大きな節目の年に当たります。

企画委員会では様々な90周年記念事業を予定しており、原稿執筆時点では具体的な内容はまだ調整中ですが、記念事業として、県内の地域映像資料のデジタル化(前号参照)のほか、秋の「図書館総合展」に合わせた記念式典、記念講演の開催及びフォーラム会場での展示、さらには人材育成のための基金設立などが検討されています。

90周年記念事業の開催にあたっては、財政事情や各館のマンパワーを考慮して、極力簡素化していく予定ですが、節目の年の大きなイベントとして各委員会での取組や会員の皆様のご協力が欠かせませんので、どうぞよろしくお願ひします。

今回の執筆を機に司書や行政職としての自分の経験を振り返ってみて、図書館には他の部署とは異なる図書館独自の課題が多いことを改めて感じました。自治体内の他部局と相談して解決できない課題であっても、他都市の図書館と情報を交換して一緒に検討すれば解決できるかもしれません。社会情勢や課題が多様化・複雑化した現在では、自治体や館種を超えた神図協の活動や協力、研修の重要性は以前より増しているように思います。

これからも実りある研修を実施してまいりますので、皆様のお力添えをお願いします。

地域資料委員会

地域資料委員会の前身は郷土・出版委員会と言
い、郷土資料等の編集発行を行い、県内図書館の
調査・研究の一助となってきました。地域資料委
員会となってからは、今後、図書館では資料のデ
ジタル化が進むことが想定されるため、未来に残
すべき地域資料のデジタル化についても論題とな
っています。

平成 30 年度、神奈川県図書館協会は 90 周年を
迎えます。その記念事業として、県内図書館で所
蔵している地域映像資料のデジタル化を予定して
おり、地域資料委員会では現在、その選定作業を
進めているところです。図書館に埋もれている地
域映像資料を掘り起こし、デジタル化することで
長く残すことができ、かつ広く利用されるよう
にしたいと考えています。

平成 29 年度は 2 回の委員会を開催し、記念事業
としてデジタル化するにふさわしい映像資料は何
かということ、委員同士で熱く議論してきました。
「内容は一部の地域に偏らないほうがよいの
ではないか」「映像として見て面白いものがよい
のではないか」「デジタル化後は各図書館で利用
しやすいものがよいのではないか」など、さまざ
まな観点で意見を交わすことができました。現在
は候補を絞り込み、最終的な選定段階に入ってい
るところですが、平成 30 年度には何らかの形で加
盟館の皆さまにデジタル化資料をお届けできるか
と思います。

資料のデジタル化には、オリジナル資料への負
担を減らし劣化を防ぐことや、広く公開すること
が可能になるため、利用者がアクセスしやすくな
るといった利点があります。さまざまな資料を収
集・保存し、すべての人々に提供するという図書
館の不変的な役割のなかで、未来に向けて資料を
蓄積していくこと、地域資料委員会の意義はま
さにそこにありますが、その方法論としてのデジ
タル化について考えさせられる一年だったと言
えます。

[委員長 大和市立図書館 来嶋 芙実]

大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、平成 27 年度に神奈川
県内大学図書館相互協力協議会が本協会に統合、
発展的解消したことを受けて、大学図書館に関
する調査・研究に加え、相互協力事業の推進を目的
とし、平成 29 年度に運営 3 年目を迎えました。

本委員会は、平成 29・30 年度の調査研究テーマ
として「共通閲覧証のあり方」を掲げ、平成 29 年
度は、7 月、12 月、3 月の全 3 回の委員会を開催
しました。

委員会では、神奈川県図書館協会の理事会や企
画委員会の報告をはじめ、本委員会の構成や運営
に関する意見交換を行なう一方、各大学図書館に
おける課題や問題等についての情報交換も行ない
ました。

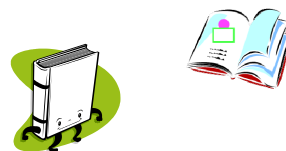
特に、相互協力の柱であり、神奈川県内大学図
書館相互協力協議会から引き継いだ大学図書館間
の相互事業「神奈川県内大学図書館共通閲覧証」
制度については 3 年目となり、そのあり方、利用
の促進について検討・協議を進めています。

大学では、学士教育の能動的学修（アクティブ・
ラーニング）への転換が必要とされ、学生には主
体的な学修に要する総学修時間の確保が求められ
ています。当然ながら、学生の主体的な学修の場
である図書館は、その機能強化、特に教育支援機
能の強化が必要とされています。

また、施設、情報等の資源や人材を通じての地
域貢献も大学図書館の役割とされ、大学発展のた
めの重要な牽引力となっています。

本委員会では、前述のような大学図書館におけ
るさまざまな課題にそった調査・研究を進めると
ともに、「神奈川県内大学図書館共通閲覧証」制度
については、学生の学修、教育・研究機会の充実
に資する制度として、その拡充について、引き続
き協議を重ね、相互協力の推進と連携を図りたい
と考えています。

[委員長 神奈川大学図書館 堀江 美由紀]



研修委員会

研修委員会では、次のとおり研修会を開催しました。

詳しい報告はホームページを御覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師(敬称略)	開催日
第1回	「国立国会図書館東京本館」(施設見学)	7/20
第2回	「『図書館100連発』ミニレクチャー&ワークショップ-小さくともキラリと光る工夫で計る図書館サービス向上策」 岡本 真 (アガミック・リソース・ガイト株式会社代表取締役)	9/28
第3回	「オープンアクセス勉強会&電子書籍講座」 立石 亜紀子 (横浜国立大学職員) 他	10/18
第4回	「横浜国立大学附属図書館」(施設見学)	10/18
第5回	第19回図書館総合展フォーラム「すべての人に資料を届けるために～知的障害者と図書館～」 基調講演：藤澤和子 (大和大学教授) 事例発表：岩本高幸 (桜井市立図書館館長)	11/8
第6回	子ども読書活動推進フォーラム「わたしの絵本」 講師：内田麟太郎 (詩人・絵詞作家) 事例発表：横浜市立西本郷中学校 (ヒブリア・バトル)、座間おはなし会 (すばなしと手遊び)	12/9
第7回	「シニア等に向けた医療・健康情報サービス」 事例発表：守屋文雄、道上久恵、京田陽子 (藤沢市立図書館)、井元有里 (逗子市立図書館)、清水奈緒美 (県立がんセンター)	1/16
第8回	「子どもの本の書評の書き方」 飯野真帆子 (東京子ども図書館職員)	2/6
第9回	「荒川区立図書館ゆいの森あらかわ」(施設見学)	2/14
第10回	「新たな視聴覚サービスについて～音楽データベース ナクソス・ミュージック・ライブラリーの導入事例より～」 ナクソス・ジャパン株式会社社員他	3/8

今年度においては、企画段階から綿密に検討された研修会を合計10回開催し、680名の方々に御参加いただきました。

研修会開催に際し、会場提供や講師派遣など様々な形で御協力いただきました皆様に改めてお礼を申し上げます。

[委員 川崎市立中原図書館 黒瀬 輝章]

広報委員会

広報委員会では協会報の発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。今年度の活動内容は以下の通りです。

1 協会報の発行 (年4回発行)

年3回広報委員会を開催して協会報各号の方針を決め、編集・校正等はメールのやり取りで行い、効率よく発行できるよう心がけました。

○259号 (7月1日発行)

平成29年度神奈川県図書館協会総会報告
わたしのイチオシ「平山煙火カタログ」(横浜市中央図書館)

○260号 (10月1日発行)

特集：横浜市と隣接4市との相互利用の開始について

わたしのイチオシ『新古今和歌集』の撰集記念「新古今和歌集竟宴和歌」(横浜市立大学学術情報センター)

○261号 (1月1日発行)

特集：第19回図書館総合展フォーラム報告・ブース展示報告
わたしのイチオシ『修紫田舎源氏』(相模女子大学附属図書館)

○262号 (4月1日発行)

特集：神図協 この1年の動き
わたしのイチオシ「北原白秋自筆原稿(「泣け泣け」「もとみたお家)」(小田原市立図書館)

2 第19回図書館総合展におけるブース展示

今年度は11月7日(火)から9日(木)まで、パシフィコ横浜で開催されました。神奈川県図書館協会のブース来場者は3日間で延べ337人でした。

展示ブースでは、協会の紹介や各委員会の概要・活動内容をパネルで紹介するとともに、協会刊行物の展示及び購入申込受付を行いました。また昨年に引き続き裏面に県内図書館の分布図を印刷した文庫カバーを配布しました。表面はゆるキャラを配置したデザインで好評でした。ロールペーパー芯で作る本立ての展示及び作り方の配布も好評で、協会をPRすることができました。しかし、さらに集客を増やすにはパネル展示だけではアピール不足と思われるので、協会90周年を迎える来年度は、新たな取り組みが必要と思われました。

[委員長 横須賀市立南図書館 長谷部 浩]

研修会レポート「シニア等に向けた医療・健康情報サービス」(平成30年1月16日実施)

平成30年1月16日(火)藤沢市総合市民図書館にて、平成29年度神奈川県図書館協会職員研修を開催した。本研修は藤沢市図書館3館の実践事例の報告、及び逗子市立図書館と神奈川県立がんセンターとの連携事例の報告の2部構成となっている。講師にはそれぞれの図書館の職員、および逗子市立図書館と連携を行う神奈川県立がんセンターの職員をお迎えした。

藤沢市図書館では、総合市民図書館から、地域のボランティアが担う資料宅配サービスについて報告された。次いで辻堂市民図書館から、地域包括支援センターと連携した健康講座の実施が報告された。湘南大庭市民図書館からは、保健医療センターと連携した健康講座、および地域包括支援ケアシステム「湘南大庭ななつ星」との連携が報告された。

逗子市立図書館では、神奈川県立がんセンターと連携してがん情報の啓発活動を行っている。報告では、医療機関との連携によって、医療機関にはない物語などの資料の幅や、受診前の啓発ができる敷居の低さ等図書館の強みが改めて認識され

たと述べられた。また神奈川県立がんセンターの職員の報告には、ライフステージに応じた医療情報の希求、一人暮らしの増加、医療の分化・専門化といった医療を取り巻く状況の変化に応じた支援の必要性が言及されている。

どの図書館も、棚の小見出しや他機関での講座のチラシの収集等、小さくても「できること」から取り組んでいる。辻堂市民図書館では記念事業を近隣の施設と共同で実施した。連携も身近なところから始まって、地域包括支援センターへの連携につながっている。こうした小さな連携の積み重ねが、湘南大庭市民図書館のような、地域全体を巻き込んだ連携につながっていく。まずは身近なところからの実践が必要であると感じた。

湘南大庭市民図書館での、地域の課題を行政資料から分析した点や、館全体でサービスのあり方を1年かけて丁寧検討し、共有をはかった点は、医療・健康情報提供に限らず、図書館サービスを飛躍させるために必要な過程であると考えられる。

(神奈川県立図書館 西野 祐子)

連載 わたしのイチオシ 小田原市立図書館 北原白秋自筆原稿(「泣け泣け」「もとみたお家」)

北原白秋は小田原とゆかりの深い作家です。明治18年(1885)に現在の福岡県柳川市で生まれ、詩壇や歌壇で活躍しますが、各地を転々とし、大正7年(1918)に気候の温暖な小田原に移り住みました。この年、児童文学雑誌「赤い鳥」が創刊され、白秋は同誌の童謡欄の担当となり多くの童謡を発表します。白秋が生涯に創作した童謡約1,200編のうち約半数を小田原で作ったことから、小田原は「白秋童謡のふるさと」と呼ばれることもあります。

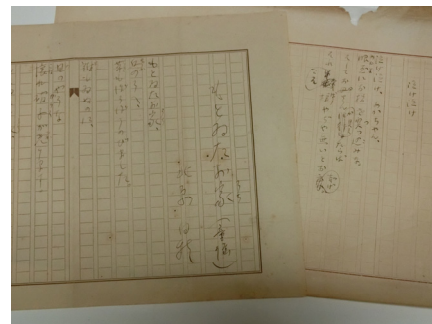
白秋は自ら童謡を創作するほか、英語圏の伝承童謡マザーグースの翻訳に力を注ぎ、『まざあ・ぐらす』(アルス、大正10年12月)を出版します。「泣け泣け」は、3行目の「お母さんへ行つたらば」が、当館が所蔵する原稿では「お母さんが見えたらば」となっているなど推敲の跡が見られ、草稿であると思われます。

大正8年(1919)、白秋は天神山の伝肇寺境内に「木兎の家」と呼ばれる自宅を建て、翌年には隣に「白秋山荘」を建てて妻子と暮らしました。引越しの多い白秋が唯一持ち家を建てたのが小田原でした。この自宅も大正12年(1923)の関東大

震災で半壊しますが、修理しつつ大正15年(1926)まで暮らしました。この年「赤い鳥」に発表された「もとみたお家」は、「もとみたお家、丘のうへ、草もぼうぼうのびました」で始まる童謡で、小田原の家がモチーフとなっています。

今年は「赤い鳥」が創刊されてちょうど100年となります。これを記念し、小田原文学館では特集展示「白秋と童謡、『赤い鳥』」を開催し、原稿や初版本などを展示しています(時期により展示替えがあります)。また、現在改修中の白秋童謡館が今夏にリニューアルオープン予定です。どうぞお越しください。

(小田原市立図書館 鳥居 紗也子)



左右「泣け泣け」「もとみたお家」